平成 27 年 4 月 18 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾　北関東フォーラム
平成 27 年度第 4 回

功名は多く窮中に向いて立ち　禍患は常に巧処より生ず

前回お話した如水会館にある渋澤栄一さんの書**「功名多向窮中立　禍患常従巧処生」**を見て参りました。３階のレストランにかかっていました。如水会館は一橋大学の同窓会（如水会）の会員の拠金によって出来ているそうです。如水会館には、もう一つ渋澤栄一さんの書いた漢詩「君子交淡如水（君子の交わりは淡きこと水の如し)」（礼記）があります。

「功名は多く窮中に向いて立ち　禍患は常に巧処より生ず」について、もう少し詳しく聞きたいとの要望がありましたので、お話致します。出典は陸游の漢詩「読史」です。

史を読みて

夜、遺編に対いて嘆じ復た驚く

古来、成敗は縦横に浩し

功名は多く窮中に向いて立ち

禍患は常に巧処より生ず

万里の関河は夢想に帰し

千年の王覇は棋枰に等し

人間隻、躬 是を耕すに有りて

路、桑村を過ぐれば、最も眼　明なり

意訳を致します。夜中に歴史書を読んでいると嘆き、自分の心の中に良い影響を与えてくれ、驚くようなことが次から次に出てくる。昔から世の中の出来事は非常に広くて、自分の想定外のことばかりが起きる。成功は、大きな問題が起きた時に、真正面から向かっていく気構えをしっかり持っている時にだいたい成就するものだ。失敗は常に自分が得意に思っている時に生じる。万里の河を堰き止めても、結局は流れていって夢幻のようなものだ。千年続く王朝も、碁盤の上で将棋をさしているにすぎない。人は生まれる時も死ぬ時もひとり、自らの腕で耕してゆくのだ。自分が選んだ道をこつこつ歩き続けて行けば、自ずと眼が開かれ物事が良くみえてくる。

如水会館にある**「功名多向窮中立　禍患常従巧処生」**の書は、渋澤栄一さんが八十七歳の時に頼まれて揮毫したものです。困難な問題にぶつかった時、諦めずに前向きに打開する気構えでいれば成功するが、得意になってしまうと、失敗するから気をつけましょうということです。

渋澤栄一さんはこの言葉を一所懸命実践していったのでしょう。自分が良いと思うことを前向きにどんどんやっていった。その結果、以前お話した城山三郎さんの「人は、その性格に合った事件にしか出会わない」という言葉の通り、多くの事件を呼び寄せたのでしょう。何か問題にぶつかるとすっと逃げていくような人の場合は、その人を変えるような事件には出くわさない。こういう人生を歩みたいと前向きに思うと、後ろから押してくれるような事件に遭遇するものです。渋澤栄一さんはそういう人物だった、と城山三郎さんは評しています。

前向きの人生のポイント

私は日記をつけています。小さなノートに書くのですが、まず日付、起きた時間と寝た時間、朝測った体重と体脂肪率、食事の内容（中身と何グラムだったか）を書きます。そして、今日はどんなことがあったか。最後に今日歩いた歩数を書きます。昨日からそこに、明日以降やる事を追加しました。夜寝る前に現在の課題を頭の中に浮かべて、「何月何日にこれをやる」という具合に書いておくようにしています。

なぜこういう話をしたかと申しますと、先日、認知症にならないための対策が書かれた本を読みました。そうしましたら、私がやっている事がそのまま認知症予防になっていました。認知症予防の一番のポイントは、以前お話した「カ・キ・ク・ケ・コ」と同じことが書いてありました。ただし、京都大学の先生の言われた「コ」は恋人ですが、恋心とありました。その本によると、男性と女性の恋心は中身がまるで違うのだそうです。男性は最後までいかないと恋心が満たされないのに対して、女性は手を繋いで歩いたり、若干触れるだけでも恋心が成就される。韓流スターに黄色い声をあげるだけでも十分に恋心が消化されるのだそうです。これは本当でしょうかねえ？

「カ・キ・ク・ケ・コ」も日記をつけることも、そのまま認知症の予防になります。皆さんは日記をつけていますか？　書くことは非常に良いので、是非お勧めします。尚且つ、声に出して読むことも良いと思います。それが自然と自分の習慣になってしまえば、認知症も怖くないと感じました。

そして何より認知症の予防には、前向きに生きることが非常に大事だそうです。私の場合、前向きな氣持ちになる動機は何か考えました。

１、食べたい・・・そのためには口を意識して、手入れを怠らないようにしなければいけません。

２、読みたい・・・そのためには目を意識して、手入れを怠らないようにしなければいけません。

３、出かけたい・・・知らない所に行ってみたい。そのためには体力を維持する必要があります。

認知症が進むと出かけたくなくなるし、新しい事を覚えたいと思わなくなるそうです。少し前の新聞の広告に、「近頃、何でもない事ができなくなってきた」とあって、靴を履く時よろける・瓶のふたが開けられない・歩幅が狭くなった・姿勢が前かがみになった・何でもない所でつまずく・・・と書かれていました。製薬会社の宣伝で失礼な広告だと思いましたが、当てはまるのですね。そこには筋肉量の変化率の表まで載っていて、それによると、60 歳を過ぎると筋肉量がつるべ落としなのです。特に男性は、女性に比べて筋肉量の落ち方が激しいという結果でした。しかし、これは何もしなければという前提です。何か日常生活で努力すれば、それほど極端に落ちないと思います。

「カ・キ・ク・ケ・コ」を実践するにも健康は必要です。とはいえ自分自身の状況が分からないと、「そうだな…」で終ってしまいますから、もう少し何とかしようという前向きな気持ちになる動機づけが必要です。

４、知り合いたい・・・知らない人に会いたいと思いますし、新しい話があると行ってみたいと思います。

５、恋心を持ちたい・・・恋心をずっと続けたいと思っています。

恒例の質問

では、恒例の質問に参りましょう。今月も半分過ぎましたから、この半月でお考えください。

○　比較的嘘をつかなかった方

○　良い日が続いていると思う方

○　有難うと言い、有難うと言われることが多かった方

○　健康法を実践している方

健康法をしなかったなという方は、こんな運動をお勧めします。一緒にやってみましょう。腕を上げて、左右の肩甲骨をくっつけるようなつもりで開いて、腕を下ろす。これだけでも健康法になるし、呼吸法だけでも結構です。

○　昨晩、明日を過去形でイメージして眠った方

少しずつイメージ出来た方が増えました。明日を過去形でイメージ出来たと思ったら、ニコッとすると良いでしょう。そうすると繋がります。

○　自分磨きをしていると思う方

どうすれば自分が磨けるか、ご自分でお考え下さい。陽明学で言えば事上磨錬です。

では最後に、天風先生のクンバハカの練習をしましょう。肛門をキュッと締める。その時に肩の力を抜いて、お腹を意識します。肛門を締めると、一瞬、良い氣持ちになります。良い氣持ちになれば合格だと思っています。

論語の視点

では論語の解説を致します。本日は子路篇 21～24 です。

【二一】子曰く、中行を得て之と与にせずんば、必ずや狂狷か。狂者は進みて取り、狷者は為さざる所有り。

孔子が言うには、右にも寄らず左にも偏らない調和の取れた人と知り合って行動を共にすれば良い。そういう人がいない場合は、狂の人や狷の人を選べば良い。狂の人は、行いは伴わないが志が高い。狷の人は、知は足りないが積極的に行動する。

狂も狷も偏っていますが、孔子は、可もなく不可もなく時間つぶしの友人は駄目だと言っています。行動力が抜群である、或いは志がべらぼうに高い、そういう偏っている人を選んだ方が役に立つ、と考えればよろしいでしょう。

翻ってご自分の友人・知人はどうですか。可もなく不可もない、時間つぶしの友人はいませんか。自分自身の節目節目に、友人も棚卸しをするとよろしいでしょう。

日経新聞の「私の履歴書」に今、ニトリホールディングス社長の似鳥昭雄さんが連載をされています。今朝の話は、ペガサスクラブという渥美俊一先生の勉強会に参加するようになった似鳥さんが、「年商５０億以上のＡクラスの講義から出てくるダイエーの中内氏やイトーヨーカ堂の伊藤氏、ジャスコの岡田氏を、まるでスターを見るようにどきどきして眺めていた」と書いています。

その似鳥さんが、だんだん雲の上の存在だった人達に追随していくわけです。こういう人と付き合いたいと想えば、自然と付き合うようになれる。強く想っていると、それを心の中に秘めているわけにはいきませんから、やはり周りに喋ります。そうすると周りも応援してくれて、結果として、雲の上のような人といつの間にか付き合っているようになるのです。

【二二】子曰く、南人言えること有り。曰く、人にして恒無きは、以て巫医を作すべからずと。善いかな。その徳を恒にせずんば、或は之に羞を承むと。子曰く、占わざるのみと。

孔子が言うには、南国の人の言葉に「恒久不変の心が無い人は、巫女や医者にはならない方がよい」とあるが、善い言葉である。易の言葉に「人徳を常に持っている人間でなければ、人さまから謗りをうける」とあるが、このことによく当たっている。恒久不変の心が無い人に、未来を占うことは出来ない。

言葉や態度がころころ変わる人間はいけない。首尾一貫した動き・考え方をする人が良い、と捉えれば良いでしょう。

自分自身に置き換えて、自分はぶれていないかお考え戴くとよろしいでしょう。政治家であれば、選挙の時に言ったことが初志貫徹で 10 年・20 年経っても変わらなければ素晴らしいし、変わってしまえば恥ずかしい、と読みとります。言った台詞が全く変わってしまっては、周りが信用しなくなります。

ただし、怖いのは本人が氣が付かないことです。それには「お前、おかしいぞ」と言ってくれる友人、その人が言ったことは無条件で信用できるような友人・知人を作っておく必要があるでしょう。

【二三】子曰く、君子は和して同ぜず。小人は同じて和せず。

孔子が言うには、君子は人と心から一致して打ち解けるけれども、うわべだけ合わせることはしない。小人は表面だけ合わせるけれども、心から一致することはまず無い。

ご自分は君子型か小人型か考えてみればよろしいでしょう。

【二四】子貢　問いて曰く、郷人　皆　之を好せば如何と。子曰く、未だ可ならずと。郷人皆　之を悪まば如何と。子曰く、未だ可ならず。郷人の善なる者、之を好し、其の不善なる者　之を悪まんには如かずと。

子貢が孔子に「地域に住んでいる人が皆、あの人は善い人だという人物は如何でしょうか」と聞きました。

孔子が答えました。「皆が善い人物だと言っても、まだまだ信用してはいけない。」

更に子貢が「地域に住んでいる人が皆、あの人は悪いという人物は如何ですか」と聞きました。

孔子が答えました。「皆が悪い人だと言う人物も信用してはいけない。地域の中の善人から、あの人は善い人物だと言われ、悪人から悪い人物だと言われるなら、初めてその人物を信用してもよい。」

味方も敵も両方いる人の方が良いのであって、全員から善いと言われるような人物は、どこか隠している部分があると思った方がよいということです。

善人と言われる人にもどこか悪い所があって、悪い人間だと思っても良い所がある。この考え方は仏教の中にもありますし、私の好きな池波正太郎の作品にも見られるテーマです。

木内信胤語録に学ぶ

本日のテーマは「人間社会の崩壊－金融危機－」です。ご紹介する本は『グローバル化の終わり、ローカルからのはじまり』（吉澤保幸著　経済界）です。

金融危機に関して、私は以前から、お金がお金として機能しなくなっていると申し上げていますが、それがだんだん見えて来ました。ご存じの通り、今の世の中のお金は二種類あります。株の世界で動いているお金と、手元にあって物を買うお金です。その辺りのことを木内信胤先生は既に見抜いておられます。「知足」33 号の『木内信胤語録』を紹介しながら本日のテーマを考えましょう。

> **自由貿易とは、一番優秀な国が得をする仕組みなので、イギリスが一番の時はイギリス、アメリカの時はアメリカ。日本の時代になるということになります。従って、自由貿易体制というシステムに疑問を持って戴きます。結論として、各国とも、その国だけに通用する経済学が根付くと考えるべきです。**

アメリカがグローバル化を進めてアメリカ型のやり方を世界中に広げたわけですが、グローバリズムの正体を木内先生は見抜いておられた。要は、世界の経済圏の真ん中にあるアメリカと、アメリカに追随する先進国しか儲からない仕組みが自由貿易・民主主義・資本主義と呼ばれるものです。ですから経済圏の端っこにいる国々は自分たち先進国と同じような生活をしようというのは無理な話で、飯が食えないで当たり前。最初から資本主義はそんなことを考えてはいないのです。

ところがグローバル化で端っこにいる国々、インドとかアフリカとかイスラム地域の国等が、先進国の真似をし始めた。けれども資本主義社会は一部の人間しか得をしない仕組

みなのですから、もうどうにもならないわけです。ですからアメリカ型の自由貿易・資本主義はもう終わりということです。それを木内先生はこういう表現で言われたわけです。先生は「経済学はもう終わった」と言っておられました。

そして、これからは循環型社会で、それぞれの国の中だけでの経済圏が発達をしていく時代になると書いておられます。

> **今の近代文明の終わりは、あと八年。今世紀が終わる頃には、世界のもう常識になっているものと思う。これからは、各国とも国際性をシャットアウトしないといけない。自分の食べるものを作るしかない国に対して。安い食べ物を提供してはその国が困るし、滅びると考えないといけない。**

これは木内先生が 94 歳（1992 年）の時に言われた言葉です。先生の言われた 8 年後は 2000 年です。近代文明が終わりを迎えているということは、もう今では常識になっています。

ということで、先生が亡くなられる寸前には、今の資本主義は終わりと明確に出しておられるし、これからは国際性をシャットアウトし自分の食べるものは自分たちで作る、つまり鎖国をしていかねば生きていかれないと明確に言っておられます。木内先生のものの考え方は凄まじく鋭いと感じます。

木内先生のものの考え方は、「総合的直観力」とご自身で表現しておられます。私も先生の考え方を身に付けたいと思っておりまして、季刊誌「知足」の表紙に「総合的直観力の人間学誌」と書かせて戴きました。その考え方の基本的な方法については、次のように言っておられます。

> **ものの考え方。個々の知識の寄せ集め、という頭から早く脱却して欲しい。自分で考え方の筋道を作り、それに必要な知識を入れるというスタイルにして下さい。**

自分で考え方の筋道を作るということは、新聞やテレビやネットを見る時に、例えば＜中国＞というキーワードを作ります。そうすると中国は完全に中華思想です。中華思想とは、中国が世界で一番優秀な国で、その他の国はすべて夷狄（野蛮）という考え方です。この中華思想であるという大前提を置いて、それに必要な知識を入れていく。

「腐敗官僚や政治家が自分の金として外国へ持ち出した資産は 15 兆を超えている」という記事があります。凄まじい金額ですが、これこそ中華思想のしからしむる所で、つまり一族郎党全部を面倒見るわけです。賄賂を貰うのが当たり前の国ですから、賄賂の争奪戦をして、尚且つ、賄賂を根こそぎ国家に没収されてしまう前に外国へ逃げ出したわけです。更に、周近平首席は毛沢東と肩を並べ、更に上に行こうと考えているから、キツネ狩りを

している。・・・というように筋道をつけると必要な情報がどんどん入って、パズルのようにはまって来るわけです。そういうものの見方・考え方をしなさいと木内先生は言っておられます。

更に、二つご紹介します。

世界のうちで、一番こんなに良いところはない。鎖国が出来るような国に住んでいることは、素晴らしいと考えて下さい。

これは、今申し上げた話の集大成です。世界の歴史において一番優れた時代は日本の鎖国の時期、特に江戸時代の終盤であると、アメリカの国会でマクガバンレポートが発表されています。その結果として、日本の寿司文化などが世界に広がっていって現在に繋がっているわけです。ですから諸外国から見ると一番理想的な社会、インフラ、そして食べ物は、日本の江戸時代末期だと言われています。木内先生はそこら辺を見通して、こう表現しておられるわけです。

私を喜ばした最近のニュースは、日本に石器があったということです。一万六千年前に、日本人が日本大八洲に住み着いていたんです。

私はこの話を木内先生からお聞きした時、ピンときませんでした。上野の国立科学博物館に縄文時代の様々な展示物がありますが、それらを見ると日本が世界で一番古い文明を作り、文化が発達したということが実感できます。中国は悠久四千年の歴史と言いますが、日本の縄文時代は一万六千年前ですから、段違いです。前にも申しましたが、考古学の視点が変わって来ています。具体的なものは漆文化です。縄文時代の竪穴式住居には、漆の柱が多く使われていました。更に、縄文人は漆の実や若芽を食べ、漆を使って器を作っていました。漆工芸・ 漆文化が進んでいたわけです。それが朝鮮半島を通じて大陸に入り、そこで根付き発達をして日本に返ってきた。そういう流れを考えると、日本は最古の文化・文明を持つ素晴らしい国であると木内先生が喜んでおられるのも納得できます。

「知足」３３号に掲載された『木内信胤語録」をご紹介しました。一つの文章の中に、これだけのものの考え方がいっぱい詰まっています。一つの文章、一つの記事から色々なものが読み取れるような力を、是非身に付けて戴きと存じます。

新聞の見方　―情報の融合―

残りのお時間で時事評論、新聞の見方を申します。何度もお話しているように、色々な情報をとっておくと、どこかでポンと融合するようになります。そうなれば新聞・ネットの見方は合格です。先ほどお話した＜中国＞というキーワードで考えてみましょう。

4 月 7 日の日経新聞に、「中国の一人っ子政策による人口構成の歪みが思わぬ波紋を広げている」という記事がありました。男女比の不均衡が招く結婚難が深刻で、売れ残った男性を「剰男」と呼び、婚活ビジネスが盛んだそうです。それが人身売買ビジネスの温床となり、東南アジアに住む女性が次々と中国の農村地域に連れて行かれ、現地男性と強制結婚させられている、と書かれています。

この記事から、一人っ子政策の歪みが出ているのだなと考えると同時に、中華思想に起因するのではないかと考えられます。そうすると、「西洋風の家に住み、日本人のお嫁さんを貰い、中華料理を食べるのが理想的な男性の生き方だ」という昔の人の話がありますが、こういった言葉も過去の歴史と繋がって来るわけです。

他に、中国主導で作られるアジアインフラ投資銀行（ＡＩＩＢ）に関しての記事もあります。各国が雪崩をうってＡＩＩＢに参加を表明していますが、昨日、創始メンバー57 か国が確定したとありました。

今、新聞を読む時には、中国に関する情報をとっておくと良いでしょう。日本の国の中でどのような動きが始まったか、日本の政府はどう動くかが見えてきます。ということは、お金の動かし方、対応の仕方も少し違ってきます。中国が一つのポイントになっていると思います。

お時間になりました。本日の講話を終了致します。有難うございました。